

## 「第4回若ツナフェスタ」を開催しました

2025年11月30日（日）9:20-16:00、広島県豊田郡大崎上島町で「若ツナフェスタ」を実施しました。



若ツナフェスタは、「若者×ツナグバ」で今年度支援している団体が初めて顔を合わせて協働活動を行うもので、「若者同士をつなぐ」、「若者と地域をつなぐ」、そして「若者が関与する地域の活性化につながる」この3つの“つながり”を生み出すことを目的に、交流・体験・対話の機会を創出するものです。

今回の参加者は、今年度の「若者×ツナグバ」で支援している、20代を中心に健康な体を保つことを目的に、ジョギングしながらゴミを拾うプロギングなどのフィールドイベントを開催している社会人中心の団体「7 hours club」、若者が気軽に立ち寄り、専門的な支援（性教育やメンタルヘルス等）を受けられるユースクリニックに取り組む大学生中心の団体「koko ilo（ココイロ）」、東広島市在住の外国につながる子どもたちとその保護者に向けて季節の体験イベントと日本語教育、保護者への情報提供を行う大学生中心の団体「結～YUI～」、町と一緒に自分達の手で改修した建物を利用し地域活性化に取り組む大学生中心の団体「上島未来共創隊」の4団体と現地の柑橘農家さん、当事業のアドバイザー、そして私たちマツダ財団員の総勢23名。

上島未来共創隊が活動している豊田郡大崎上島町のみかん畑や木江地区にある改修した建物（旧警察官舎）を中心に開催しました。

企画・運営は、当日残念ながら参加できなかった1団体を含め、すべて若者×ツナグバ参

加団体のメンバーの手で行われました。初めに、今回の活動のゴールをみんなで話し合い設定、それぞれ忙しい中、時間を捻出しオンラインミーティングを重ね、達成するためのアイデアを出し合い実施内容が決定されました。

### —プログラム—

#### ◆農園での収穫体験と農家さんとの交流

- ・農園案内
- ・柑橘類収穫体験
- ・農家の仕事、島の暮らしの紹介

#### ◆交流会準備

#### ◆4団体による交流会

#### 【ゴール】

「地域の自然・人・仕事にふれながら、若者同士・地域住民・他団体との“つながり”を実感し、自らの関わり方を考える機会を創出する。」

1. 若者同士をつなぐ  
異なる団体・地域の若者が交流を通じて相互理解を深め、将来的な連携の土台をつくる。
2. 若者と地域をつなぐ  
みかん農家や地域住民との関わりを通して、大崎上島の地域資源や課題を体験的に理解する。
3. 若者と社会をつなぐ  
活動を記録・発信することで、自らの行動を社会と共有し、他地域・他世代へと希望の連鎖を生む。

当日は、安芸津港に集合、フェリーで島へ渡りました。これまでは、オンラインでの交流でしたが、実際に会っての交流は初めて。乗船中に車座になり自己紹介をすると、あっという間に皆さん打ち解けた様子でした。

島に渡り、最初のプログラム農園での収穫体験と農家さんとの交流の会場に向かいました。まず初めに、農家さんより農園の概要説明を伺った後、収穫体験の場所にご案内いただき、作業手順を教えていただいた後、実際にみかんの収穫体験を行いました。参加者は、普段行うことの無い作業とあって、最初は真剣な面持ちで丁寧に、慣れてくると楽しそうに、また、各班収穫を競い合うように取り組んでいました。1時間強の作業であっという間に、ミカン箱が満杯になり、みんなの額には汗がにじみ、達成感のある顔をされているのが印象的でした。収穫後はIターンで大崎上島に来られた農家さんが自家製のホットミカンジュースを振舞ってくださり、温かい日差しの下で頂きながら日々の仕事や島暮らしなどの話をお聞きした他、地域の課題（少子高齢化、人口減少、農業後継者問題）や移住の経験談等も伺い知ることができました。



農園を後にし、交流会会場の旧警察官舎に移動、手分けしてバーベキューの準備をしました。バーベキューをしながらの交流会では、各団体同士、また、アドバイザーを交えて等、自分達が課題に思っていること（団体の運営や継続、今後の進路のこと等）の真剣な話から他愛のない話まで、ざっくばらんに意見交換し、交流を深めていました。コロナ禍の経験を経てオンラインでの交流が盛んになり、その便利さを実感する一方で、対面でしか得られない温度感のあるコミュニケーションが、瞬時に深いつながりを生み出すかけがえのない貴重な経験であることを改めて感じました。

この若ツナフェスタで得られた知見や経験が、参加された皆さんにとって、今後の取り組みを進めるうえでの原動力となることを期待しています。



### ＜参加した「若者×ツナグバ」メンバーの感想＞

#### 目的1：若者同士をつなぐ

- ・対面での交流により、団体間の理解が深まり関係が大きく前進した。
- ・共同体験を通じて距離が縮まり、今後の協働への意欲が高まった。
- ・オフラインだからこそ、フラットに交流することができた。
- ・他団体の普段の活動内容についてより深く知ることができ、活動のスタンスや困りごとについての議論を通じて、自分たちの活動を更に盛り上げていきたいという気持ちが高まった。
- ・一緒に食事をしたりみかん狩りをしたりといった体験を通じて、同じ財団の採択者といった関係性から、一気に距離が縮まったように思う。今後、他団体ともなにかしらの形でコラボしていけたらなと感じた。
- ・何かしたいと考える若者どうしが直接会って、親密な関係を作ることができたと思う。この場所で何ができるかということよりもこの場所で知り合えたことに大きな意味があると思うので、このつながりを大事にしたいと思えるイベントだった。

#### 目的2：若者と地域をつなぐ

- ・みかん農家さんとの交流などで地域と触れ合う機会があったが、関わりは限定的だった。
- ・大崎上島というこれまで行ったことない地域に行くことで、大崎上島の人や自然、環境に対してポジティブなイメージを持つことができ、地域活性に力を入れたいとより強く思えるようになった。一方で、もう少し、地域との交流を増やせばよかったとも考える。地域の人も巻き込むことがよかったとも考える。

#### 目的3：地域活性化へのつながり

- ・直接的な活性化には至らなかったが、大崎上島への理解や再訪意欲が高まるきっかけになった。
- ・他団体の皆さんに大崎上島という場所、そして私たちの活動拠点の魅力を知ってもらえる貴重な機会になった。これからの活性化のきっかけづくりという意味で良い時間になったと思う。今後 SNS などを通じて互いの地域活性化も目指していきたい。

・今回の団体は大学生が関わっていることも多く、活動期間に制限がある団体もあるはずだが、団体のメンバーが集まってそれぞれの話をすることで、お互い良い刺激を与え合い、もっと頑張ろうという気持ちになれるため、私たちが地域活性のために再び進み出す後押しをこのイベントでさせてもらえたと思う。

・今回上島の旧警察官舎で BBQ を行いましたが、そばを通る地域の人達が「何か活動しているな」と目を向けてくれたり「盛り上がっている場だな」と気づいてもらえる一日になったのではないかと思います。これをきっかけに「あそこは何か若者が楽しそうな事をしているな」「参加したいな」と思ってもらえていたら嬉しいです。

#### 全体を通して

・この会の一番の目的は団体同士が仲良くなることだったので、それを達成できたのは非常に良かった。

・団体同士の交流に重きを置いたコンテンツにした分、仲が深まり、深い話をすることができてよかった。

・笑顔が絶えなかったこと。準備の段階ではオンラインでやりづらい部分もあったが、一人ひとりが役割を持って動いていたのではないかと思います。

・基本的に若者同士だけで企画から運営までやらせていただいたことが最もよかったと思う。そのおかげで何かに縛られたりせずに、自分たちのやりたいことを自由にすることができ、終始笑顔になれるようなイベントだった。

・今回 5 団体の共同でイベントを行うというところで、それぞれの団体がミーティングするのも日程が合わないことがあり、やりにくかった部分も少し感じた。ただ大人数でイベントをする時にはこの話はずきものだと思うので仕方ないかと思う。

・活動場所が大崎上島だったので、上島未来共創隊さんにお仕事が集中してしまった。

・オンラインでの MTG、やはりリアルで会う方がやりやすさはある。だが日程を合わせるのが難しいという点があり難しいと思う。

・若ツナフェスタの目標設定が遅かったので、もう少し早く全体で決めておけると段取りをスムーズに決めることができたかなと思った。

・一度直接会って交流会を行ってからイベントを開催するともう少し地域に開けたイベントになったのかなと感じました。

・もっと他の団体のことについて知りたいと思ったので、何か知れるような機会を増やしていただきたいと思った。

